

藤沢駅前街区エリアデザインコンセプト



コンセプト

「まちや人をつむぐ。」

藤沢駅前街区は、多くの人が行き交う湘南の玄関口の役割を担い、にぎやかな都心の顔とぬくもりのある郷土感が調和したまちです。

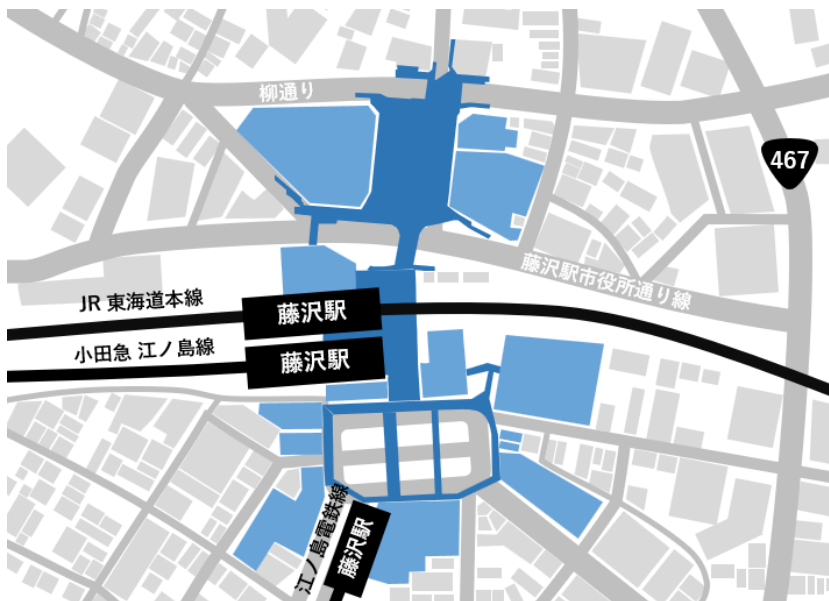
そこに集まる人と多様な機能、活動が混ざり合うことでつむぎだされる魅力的なミックスカルチャーと駅前のにぎわいや個性が、将来にわたって、つむがれていくことの想いを込めています。

背景と目的

藤沢駅前街区エリアデザインコンセプト（以下「コンセプト」という。）は、にぎわいと魅力あふれる駅前づくりを目指して、湘南の顔となる地区としての藤沢の歴史や文化を踏まえながら、風格や趣が感じられるまちづくりを推進していくために必要なデザイン要素等を位置付け、藤沢駅前街区における公共施設整備、民間施設建て替え等のデザインの指針とします。

対象区域

藤沢駅前街区※（青色で着色した区域）



※藤沢駅前街区：藤沢駅周辺のにぎわいづくりに重要な役割を持つ駅街区（藤沢駅施設、南北駅前広場を含む街区）及び南北デッキに接する地域のうち、容積率が600%以上である区域。

1 デザイン要素

施設整備において満たすべき「基本的な要素」と各施設の特徴に合わせて柔軟に組み合わせられる「個性的な要素」の5つのデザイン要素をつむぎ合わせることで、藤沢駅前らしいエリアデザインを目指します。

I 基本的な要素



「安心・安全」なデザイン

子ども、高齢者、外国人等、誰もが安心して過ごすことができる、安全に配慮したまちのデザインとします。



「わかりやすい」デザイン

訪れた人が目的に応じて、スムーズに誘導されるよう、わかりやすく機能的なまちのデザインとします。

II 個性的な要素



「交流・にぎやか」なデザイン

たくさんの人やモノと出会え、多様性のある、ミックスカルチャーで、にぎやかなまちの下地となるデザインとします。



「自然・明るい」デザイン

空、太陽、海といった藤沢の豊かな自然を感じられるような、明るく、自然あふれるまちのデザインとします。



「ぬくもり・優しい」デザイン

誰もが自分に合った居場所を見つけられるような、多様でぬくもりや優しさを感じるまちのデザインとします。

藤沢駅前街区エリアデザイン会議

コンセプト並びに南北自由通路のデザインについて検討を進めるため、「藤沢駅前街区エリアデザイン会議」を令和4年度、令和5年度に計7回開催し、藤沢駅前らしさの整理や空間の設えと人の活動の両面からの検討などを議論いただきました。

同会議は、学識経験者、エリアマネジメント団体、鉄道事業者及び本市の職員で構成しており、学識経験者として、次の3名に参画いただきました。

- 石川 初氏 慶應義塾大学教授（議長）
- 伊藤 香織氏 東京理科大学教授（副議長）
- 加藤 幸枝氏 (有)クリマ代表取締役・色彩計画家

I 藤沢駅前らしいキーワードの抽出

藤沢駅前らしいデザインとするため、市施策等のトップダウンと市民意見等のボトムアップから藤沢駅前街区に関連する「キーワード」を抽出します。

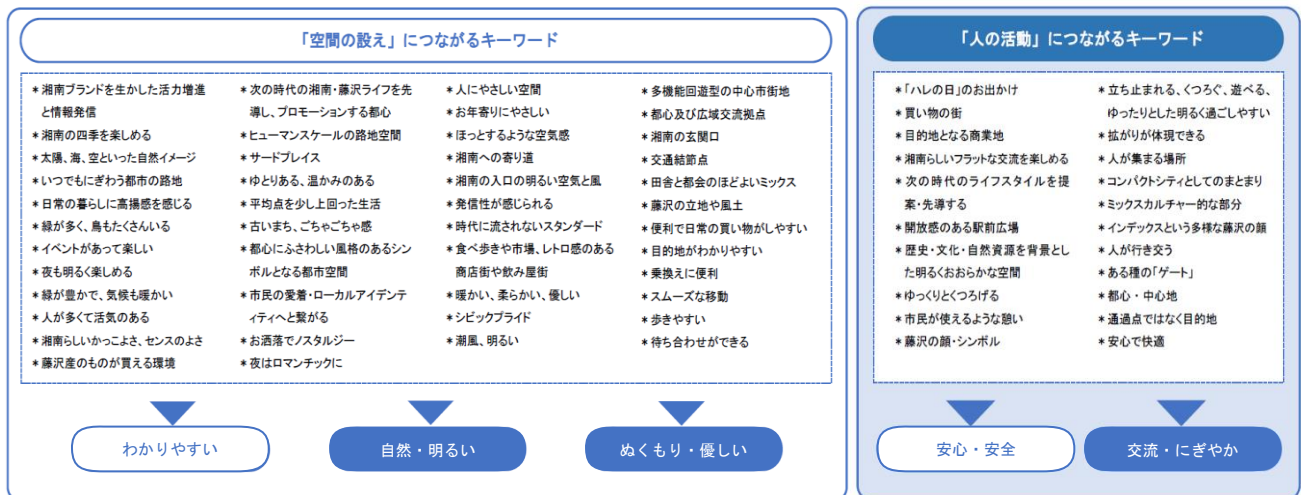


©わがまちふじさわ景観ベストテン 他

(市施策等における街区の位置付け) 湘南ブランドを生かした活力増進と情報発信／湘南の玄関口 等
 (市民意見等からの街区のイメージ) 太陽、海、空といった自然に近いイメージ／ほっとするような空気感
 ／人が多くて活気がある／湘南らしいかっこよさ／レトロ感のある商店街／お年寄りに優しい 等

II 5つのデザイン要素として整理

デザインは、その空間としてのデザインだけではなく、人の活動が及ぼす影響もデザインに関係すると考え、藤沢駅前らしさのキーワードを「空間の設え」と「人の活動」に分類し、そこからみられる空間的な特徴を5つの「デザイン要素」として整理します。



III 基本的・個性的な要素として整理

多くの人々が利用する駅前街区の施設整備において、安全性や視認性等は満たすべき必須の要件であると考え、「安心・安全」と「わかりやすい」は、デザインの「**基本的な要素**」とします。

一方で、多様な用途や文化が重層する街区の個性を生かせるように、都心としての「交流・にぎやか」、湘南を感じられる「自然・明るい」、人の交流やどこか懐かしさもある「ぬくもり・優しい」は、施設の個性に合わせて柔軟に選択し、組み合わせられるデザインの「**個性的な要素**」とします。

3 デザイン要素の参考例

藤沢駅前街区における公共施設整備、民間施設建て替え等において、デザイン要素を検討するための参考となる事例を紹介します。（事例の説明文は市が独自に解釈したものを含みます。）

「安心・安全」なデザイン事例

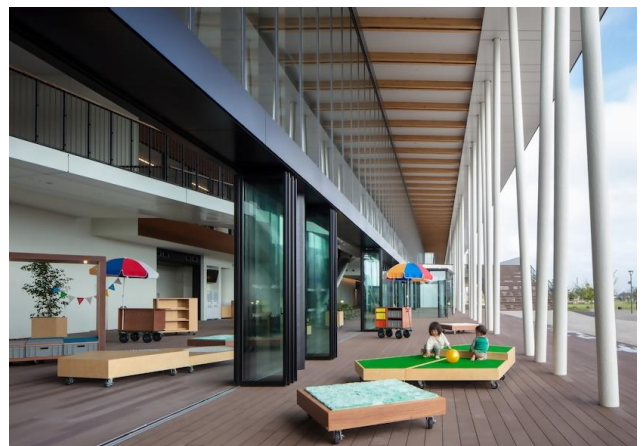
元町駅前まちなか拠点（神戸市）

駅前の限られたスペースにおいて、待ち合わせや休憩ができるような設えを設けることで、多様な世代の方が快適で安全に過ごせるようなデザインとなっています。



かみす防災アリーナ（茨城県）

見通しが良く分かりやすい避難施設となるような空間構成とすることで、安全に配慮した防災拠点でありながら、普段はみんなの居場所となるようになっています。



©2019 グッドデザイン賞：清水建設・梓設計設計共同企業体

「わかりやすい」デザイン事例

渋谷サイン

組織の壁を越えた体制によって、駅とまちで共通のサインが設置され、エリア全体としての一体感を持つことで、駅やまちがわかりやすく、アクセントとして愛着が持てるサインとなっています。



福岡市営地下鉄七隈線 櫛田神社前駅

線路全体としてのデザインポリシーに基づいた照明計画によってデザインが統一されており、出入口や誘導ブロックなどを利用者に分かりやすく誘導する工夫がされています。





「交流・にぎやか」なデザイン事例

Kosugi 3rd Avenue (川崎市)

飲食店のテラス、イベントスペースや憩いの空間といった多様な機能を近接させることで、にぎわいの相乗効果が生み出されています。



太田市美術館・図書館 (群馬県)

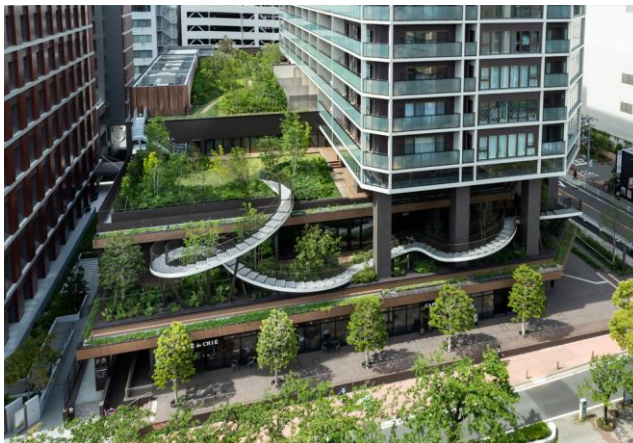
駅前施設に多機能を連結させ、幅広い世代の方の居場所をつくることで、その活気が周囲の商店街にも広がり、新しいにぎわいが生まれています。



「自然・明るい」デザイン事例

横浜北幸ビル

街路樹から連続する緑を建物施設に取り込み、全体的に明るく表情豊かな自然が感じられるデザインとなっています。



©Munehide Ida

東遊園地 (神戸市)

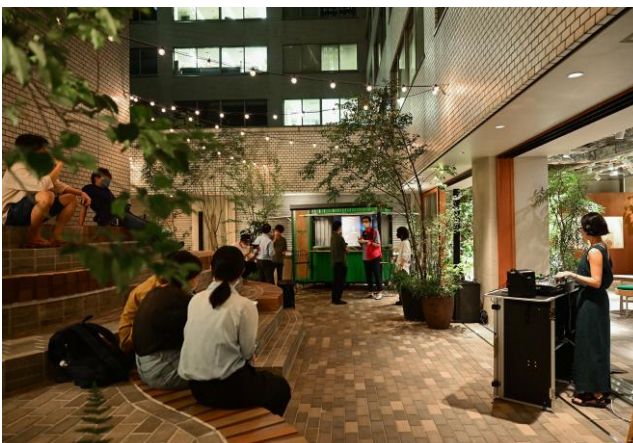
樹木に囲まれつつも、開放感のある自然の景を感じられる空間構成となっており、再生木材を利用したファニチャーや多様な居場所が設けられています。



「ぬくもり・優しい」デザイン事例

Slit Park YURAKUCHO

都市の隙間に様々な属性の人が落ち着ける居場所を生み出すことで、異なる機能や活動が共存した街路空間となっています。



©東邦レオ株式会社

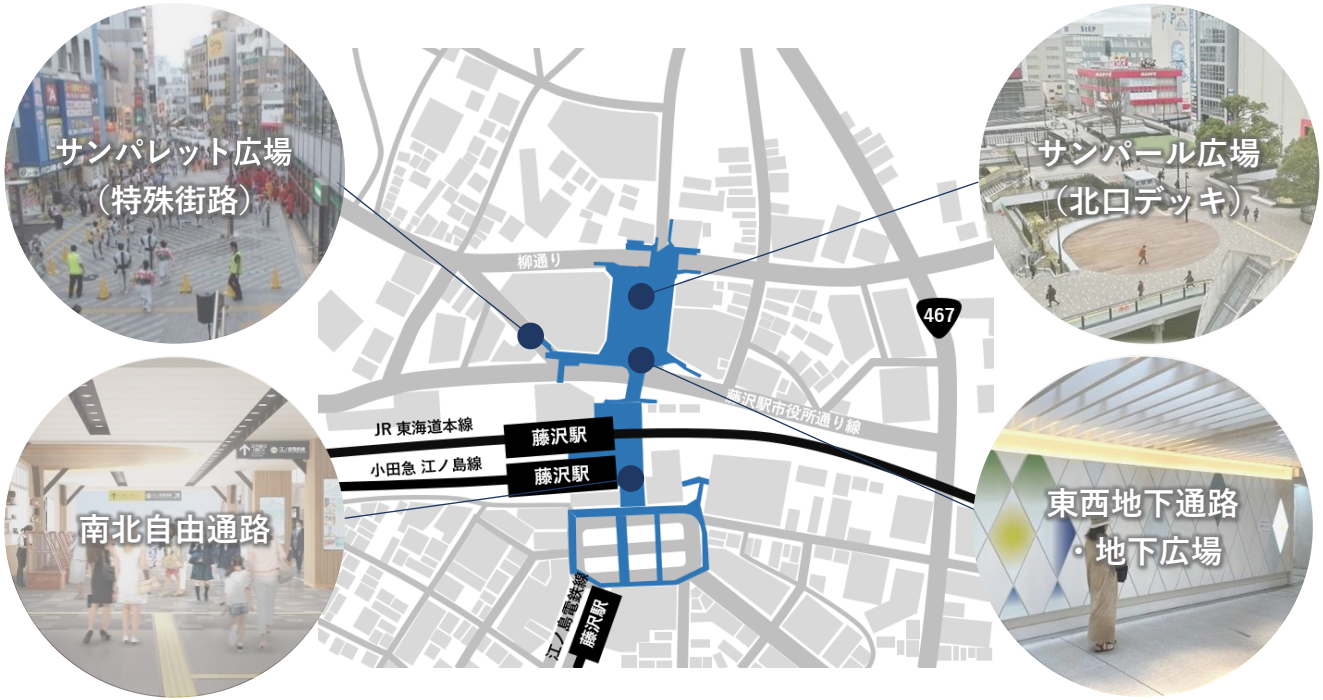
OMO7 大阪

ホテルとまちの境界を曖昧にすることで、公共空間と民地とが視覚的・空間的に優しく連続するよう配慮されたデザインとなっています。



4 デザイン要素の展開例

藤沢駅前街区のサンパール広場（北口デッキ）、サンパレット広場（特殊街路）、東西地下通路・地下広場及び南北自由通路においてデザイン要素を展開した事例を紹介します。



デザイン要素： 安心・安全 わかりやすい 交流・にぎやか 自然・明るい ぬくもり・優しい



南北自由通路

施設コンセプト「通路として安全性やわかりやすさを備えるとともに、駅前空間としてまちとのつながりを意識した駅周辺への回遊を促すデザインにすることで、多様な人や文化との出会いや交流、にぎわいが街区全体に広がるような『駅・人・まちをつむぐ』自由通路」

- 交錯していた従前の動線を解消し、十分な幅員をとることによって通路の安全性を確保
- 街区でサインを統一することで、利用者が容易に目的方向へ移動できるよう視認性に配慮
- 駅からの回遊性やまちとの連続性を意識し、北口・南口駅前広場と舗装を連動
- 天井や壁面の色調について赤みを押さえた配色とすることで、自然光による明るさを強調
- 都市の中にあってもぬくもりが感じられるよう天然木を柱やにぎわい空間等に使用することで、心地良い居場所を確保





©藤沢駅周辺地区エリアマネジメント

サンパレット広場（特殊街路）

施設コンセプト「湘南・藤沢 Garden Gate
『都市の路地・ガーデン』」

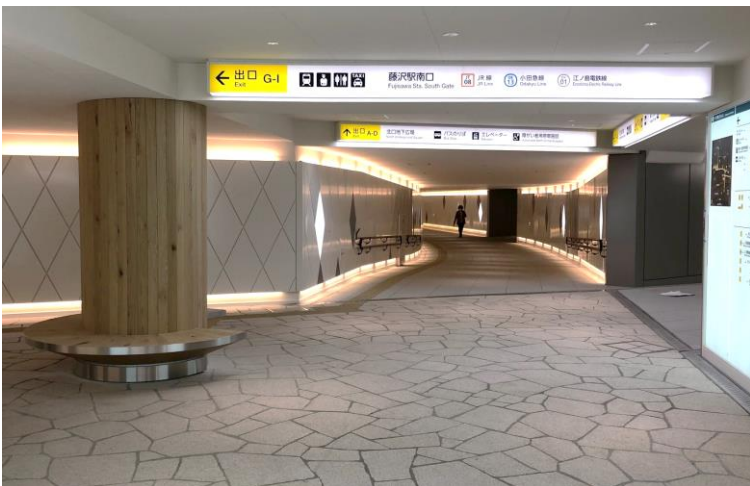
- フラットな舗装、エスカレーターの設置等によって歩行者の安全性、利便性を向上
- 人々が容易に移動できるよう、またイベント利用にも配慮し、十分な空間と見通しが確保
- エリアマネジメントによるイベントなどが実施できるような設え



サンパール広場（北口デッキ）

施設コンセプト「湘南・藤沢 Garden Gate
『暮らしを楽しむひろば・ガーデン』」

- 手摺、階段段鼻、誘導ブロックなど移動時の安全を確保するとともに全体的な調和にも配慮
- 藤沢の豊かな自然である空・太陽・緑を取り込んだ明るく開放感が感じられる空間へ
- 芝生広場やベンチ等を配置することで、様々な世代の方が利用できる居場所を確保



東西地下通路・地下広場

施設コンセプト「人々が集い、にぎわいが創出され、安心して快適な空間づくりとして、『つなぐ・むすぶ・ささえる』」

- 天井や壁面、サイン、照明等を白を基調とすることで、明るくて、安心・安全な空間へ
- 壁面には「水面の象形」をテーマにした柄を表現し、藤沢の風景イメージを展開
- 広場にはサイネージ・インタラクティブ機能を設え、にぎわいを創出する仕掛けを設置

藤沢駅前街区のサイン計画

藤沢駅前街区において、北口駅前広場、東西地下通路、南北自由通路、南口駅前広場、及び駅舎（JR、小田急、江ノ電）のサインの考え方を統一することで、駅とまちとの一体感を創出します。

（仮）藤沢駅南北自由通路サイン



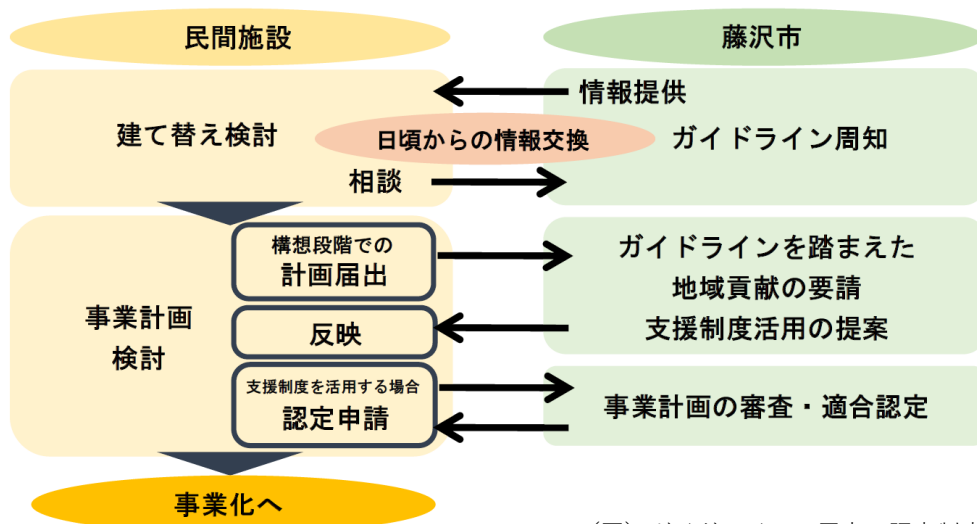
藤沢駅北口広場・東西地下通路サイン



5 デザインコンセプトの運用

本市では、普段より、地元との勉強会等を通じて、藤沢駅前街区まちづくりガイドライン（以下「ガイドライン」という。）の内容、支援制度等について周知するとともに、民間施設の建て替えやリニューアルについて相談に応じています。

コンセプトは、ガイドラインの中の地域貢献の項目として位置付けることで、藤沢駅周辺地区を再活性化するためのツールとして、ガイドラインとともに運用します。



(図) ガイドラインの届出・認定制度

6 藤沢駅前街区エリアデザインコンセプトが伝えたいこと



石川 初
慶應義塾大学教授
藤沢駅前街区エリア
デザイン会議議長

藤沢駅前街区のエリアデザインコンセプトのため、エリアデザイン会議という場が用意され、令和4年6月から2年間にわたって委員の皆さんにしっかりとした議論を重ねて頂きました。その結果、このようなコンセプトにまとめることができました。地域のデザインはややもすると地域性を象徴する色や記号が掲げられたりしますが、このコンセプトはそうではなく、デザインの対象を基本的な要素と個性的な要素という整理をし、その組み合わせでデザインするという「方法」を掲げているところに特徴があります。これは画期的なコンセプトで、今後整備されていく公共施設や民間施設にも利用できるものですし、他の地域や自治体でも応用できるような事例を作ることができたと思います。

エリアデザイン会議では、コンセプトの検討とともに南北自由通路のデザインの検討も並行して進められました。コンセプトを作るそばからそれを応用していくという進め方でした。南北自由通路のデザインは、運用が始まってからその表情が豊かになるようなデザインとなり、良い形でエリアマネジメントにバトンを託せたと思います。

このコンセプトが多くの方の目に触れて、駅前街区をはじめとするまちづくりに役立ててくださると嬉しいです。



藤沢駅前街区エリアデザインコンセプト
2024年（令和6年）3月発行

藤沢市 都市整備部 藤沢駅周辺地区整備担当
〒251-8601
藤沢市朝日町1番地の1 分庁舎6階
電話 0466-50-3552（直通）